

大和市協働ルール（資金部会） 第2回ワークショップ テーマ「社会資源の新しい可能性を学ぶ」

2005年3月6日開催
発行:玉川まちづくりハウス・大和市市民活動課

はじめに

2005年3月6日に大和市協働ルール・資金部会第2回ワークショップが開かれました。テーマは「社会資源の新しい可能性を学ぶ」ということで、第1回目のワークショップのテーマ「社会資源を考える」を1歩進め実際に社会資源を活用して活動している大和市以外の事例を二つお話ししていただき、大和市では何ができるかの可能性を考えるワークショップです。

ワークショップを始めるにあたり、進行役からこのワークショップの目的についての説明がありました。

今日は資金部会の社会資源を考えるワークショップ第2回目です。前回の第1回目は、「社会資源」という言葉の理解を深めようという目的で、大和で市民活動をされている方と事業者の方の出会いの場を設定しました。事業者の方の参加が思うより少なかったなどの反省もありましたが、参加された市民活動団体の中の点図サークル「オーロラ」さんでは、これをきっかけにその後の活動に進展が見られました。

「オーロラ」さんのその後の活動報告
同じ班で話し合った二条通商店街の内田さんの紹介で、タウン誌「タウンニュース」に活動が掲載され、それをきっかけにボランティアの方が一人活動に参加することになった

気軽に話し合うことでネットワークが生まれる事例となりました。第2回のテーマは新しい仕組みを学び、視野を広げて社会資源を考えよう、ということです。

はじめに資金部会から社会資源ガイドラインの報告、そのあと新しい資金システムの可能性を学ぶということで東京コミュニティパワーバンクの坪井さんと、COS 下北沢の佐藤さんにお話しいただきます。



大和市協働ルール 資金部会 ワークショップの日程

2004年11月28日
第1回「社会資源を考える」

社会資源を積極的に活用したい大和市民と地元の企業の方に参加していただき、「社会資源」とは何か、という共通のキーワードを見つけるためのワークショップ

2005年3月6日
第2回「社会資源の
新しい可能性を学ぶ」

第1回目のワークショップをふまえ、「社会資源」という言葉の理解をもっと深めるために、実際に活躍している大和市外の活動を紹介し、新しい仕組みを学び視野を広げるためのワークショップ（このニュースでお知らせしている会議）

新しい資金システムの事例として参加
いただいた大和市外の活動団体

- ・東京コミュニティパワーバンク
- ・NPO 法人コスファ COSFA
- 参加いただいた大和市の活動団体など
- ・やまとの力社
- ・NPO 法人ひよどり
- ・NPO 法人ワーカーズコレクティブ 想
- ・中央労働金庫 大和支店
- ・在日華人女性交流会（市外）

「社会資源ガイドライン2004」報告 資金部会 宇津木朋子委員

大和市では新しい公共をどう実現していくか、そのために新しい公共を創造する市民活動推進条例を定め、協働推進会議を立ち上げました。その中に機能部会、拠点部会と、この社会資源を検討する資金部会があり、この2年間活動してきました。資金部会の大きな役割としては市民活動推進基金を定め平成16年4月から実施することができました。これは市民から寄付を集め、それと同額のを市で積み立てるという「マッチングギフト」方式をとっています。市民の積極的参加が求められ、市民が問われる形となっているのです。

社会資源とはお金のことだけでなく、人材、場、

知恵、情報などをいかにうまく動かし、皆が上手に活用し、活発に活動できるかが重要です。私自身も協働推進会議に参加し、いろいろな市民活動の方と話し、情報を交換し、ネットワークを広げています。今日は市民バンクの方がお話ししていただきますが、市民バンクもノウハウ、場など広い意味でのバンクになればいい。大和でもこんなバンクができるのでは、ということまで話ができればいいと考えています。



新しい資金システムの可能性を学ぶ

[東京コミュニティパワーバンク 坪井さん]

私は府中に住んでいます。今日は私も大和市の条例を学びたいと思って参加しました。

現在、東京コミュニティパワーバンク(以下東京CPBと略)の理事と、その母体となった生活クラブ東京の理事も務めています。はじめは、市民が自分のお金がどう使われているか把握したい、地域の中でお金がまわるようにしたい、そのことで地域を生き生きとさせる力になりたい、というコミュニティファンドの構想からスタートしました。そしてそれが、NPOコミュニティファンドまち未来と、貸金業である東京CPBという二つの団体に発展しました。なぜ二つの団体が必要かといいますと、東京CPBは、志は立派だけど経営がうまくいかないといった市民団体に低利で資金を貸し、力になりたいという市民バンクですから、それだけですとこちらの運営ができない。そこでもう一つNPOを立ち上げて寄付や助成を受け活動資金としているのです。

そもそも生活クラブ東京では、市民自治を広げるための運動をし、新しい公共をつくっていけないかと考えていました。コミュニティファンドになってからは、リサイクルショップや都市農業を残すための農作業受託ネットワークなどの活動をし、2003年9月にNPOコミュニティファンドまち未来と東京CPBを設立してから30箇所の説明会をして資金を集めました。東京CPBでは基本的に融資していただいた方に融資するという会員型です。今

までに、高齢者が自主運営・管理するグループホームの建設資金(NPO法人ほっとコミュニティえどがわ)や、コミュニティカフェとまちづくりをめざすカフェの改装資金(NPO法人KISS)など4回の融資を行いました。NPOでは人材育成のための講座を開いたり助成もしています。

会員は徐々に増えていますが、もともとお金のない団体に貸す、貸したものは回収しなければならないという点で難しいところもあります。理事の中には金融関係の人もおり助言をもらっています。

今までで申請をお断りしたケースとしては、自己資金がない、ネットワークがない、資金繰りに無理があるなどの難点がありました。これからの課題としては1. 審査スキルの向上、2. 出資金を集めるための広報の充実、3. 運営のための問題点がどこにあるのかを明確にするための相談事業、4. 学習、調査などがあげられます。



[NPO法人コスファCOSFA 佐藤さん]

下北沢というと古くは閑静な住宅地でしたが、最近では演劇の町、若者の町といったイメージが強いでしょうか。この地にCOS下北沢ができたのは、地域に必要な活動をしているのに拠点がないという思いと、自分の地所を地域の人のために使いたいというオーナーさんの願いが出合ったからです。そして2001～2004年の足かけ3年を経て2004年9月にオープンすることができました。

2001年、拠点を求めている団体とオーナーとの会合に始まり、もともとあったアパートを壊して更地にし、参加団体に月に1、2回、資金や設計について話し合いを重ねました。この話し合いの中



で協働で行うことの意味を確かめ合うことができたと思います。一つの建物に6団体+管理1団体の計7団体が入っていますが、それぞれの団体が設計段階

から一つずつ注文をつけ、建築上の配慮をしながら自治内装しています。木造なので工期が長く、そのぶん地域の人々が建物になじむ時間をもてたと思います。オープン前に事前に1週間オープニングセレモニーを行い竣工式にはオーナーも出席してくださいました。

参加している団体は、保育のていんかあべる、配食サービスのグループ菜、スペース スプラウト（ギャラリー）と日本あみぐるみ協会、カフェBABU、パソコン教室のプロムネット、まちづくり広場ザワーズの6つです。ここにさまざまな団体が集うことで、たとえばお母さんが子供を預けパソコンのスキルアップをする、配食サービスを利用するお年寄りがITに触れるなど、複合的な利用をしていただけたらいいなと考えています。準備があつて始まったことではなく、出会いがあつて一気にここまで来たという感じです。たくさんの方の助言をいただいて建設資金の一千万円も集めることができました。

参加者の自己紹介

[やまとの力社 瀬路さん]

現代に生きる多くの悩みをかかえている若者が、社会に一步踏み出すための支援をしています。活動としてはパソコンを使って大和市立渋谷中学校の学校開放スペースのホームページを作成したり、子どもたちにパソコン利用のマナーを教える講座を開いたりしていますが、もっと技術を高めたいと思っています。共に生き、共に学ぶ場、社会に出

ていくための最初のステップとしての役割を果たせればと考えていますが、知識と資金が不足しています。今日は皆さんのお知恵を借りたいと思って参加しました。

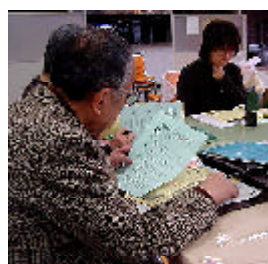


[在日華人女性交流会 姜さん]

私は中国から日本に来て働いています。10年ほどになります。今日は日本と中国との地域活動の

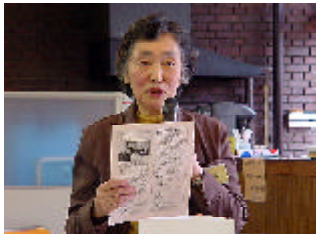


ちがいを勉強し、文化交流を通して私たちも何か社会貢献していきたいと考え参加しました。よろしく申し上げます。



[NPO法人ワーカーズコレクティブ 想 伊藤さん]

私たちは地域の中で助け合って高齢者福祉に力を尽くそうと1988年10月に30名でスタートしました。当時は資金や拠点のことなど頭になく、ただ「目の前で困っている人にサービスを届けたい」という気持ちだけで、かけだしてしまいました。はじめは利用料600円と



会費だけで運営し、最初のスタッフ30名で2万円の出資をしました。事務所などなかったのです

が、できるだけかかってきた電話は肉声で受けたいという思いで、4つの地区ごとに交替で電話番をしていました。11年目にやっと小さな事務所を持ち専用の電話を置くことができました。利用者は現在63名でほとんどが介護保険の対象となり、そのために運転資金が足りなくなって一千万円を3年ということでWCCから借りまして、安定した運営ができるようになりました。

先日のスリランカで津波被害にあった方が、WCCと私たちの活動を取材に来られました。

[中央労働金庫大和支店 松尾さん]

中央労働金庫は関東の8金庫が合併し、中央労働金庫となりました。関東で148店舗あり資金は4兆円ほど、大和支店はこの8月でちょうど10年目を迎えます。預金と貸し付けの合計量は300億円ほどです。基本的には事業には貸さないということでほとんどが個人向けの生活資金です。

中央労働金庫では社会貢献をめざし、NPOを支援する活動をしています。事業を興してまもないNPO法人を支えるための融資制度「ろうきんNPO事業サポートローン」、預金した人にNPOのサポーターになってもらい、定期預金の満期利息の30%を「ろうきんNPOサポーターズ基金」に寄付してもらおう制度、また返すことが難しい場合には「中

央ろうきん助成プログラム」で助成もしています。2004年度には一千万円以上の助成を行いました。そのほかには広報活動として、シンポジウムを開いたり、ホームページでNPOの活動を紹介したりしています。また社会貢献としては「ろうきん杯」で少年野球を応援したり、福祉車両を寄贈する活動も行っています。今日はどういう形で地域にお手伝いできるか、皆さんと一緒に議論に参加したいと考えています。



[NPO法人ひよどり 川名さん]

私たちひよどりは、「デイ南林間なんてん」でデイサービスを行っています。2002年に「住み慣れた町で民間の普通の家を改築し、デイサービスをやろう」と考え、2005年の1月から活動をスタートすることができました。この3年間はなかなか拠



点が決まらず、申請や家賃、建物の改修費など様々な問題があり、メンバーの気持ちが低下したこともありましたが、市民事業をすでに行っている先輩や、

メンバーの内外から助けてくれる方が次々現れここまでたどり着くことができました。

資金ゼロのスタートでしたが、生活クラブのネットワークや友人知人などあらゆる方をお願いし、なんとか開始までの800万円という資金を調達することができました。現在は開所2カ月がたちましたが1日平均2人の利用があります。何か事業を興そうとしたとき、たくさんの方がかかわってくださることこそが社会資源です。人と人のつながり、それをコーディネートする人や場、またこの運動に打ち込むことを支えてくれる家族も社会資源だと考えています。

4つのグループに分かれて大和市における新しい資金システムの可能性を考える

第1グループ「東京 CPB+ やまとの力社」

1. 解決すべき課題の整理

- ・設立の基本理念は？ 資金
- ・何のためにやまとの力社をつくるのかがあいまい
- ・事業計画 協働事業提案、市民団体、中小企業者の方々へ
- ・対象を定めたホームページなど、ホームページの売りをどうするか
市民に見やすい、若者向けか？高齢者向けか
- ・魅力をつくる。こだわりを探す
- ・悩みを持つ若者が、仲間と共に自分達の力をつけつつ自立的仕事場をつくる通過点
- ・この指とまれ！色々な人が集まっていく
- ・経理、管理の担当

2. 今後取り組みたい具体的なプロジェクトの提案

- ・委託事業として市と交渉
- ・協働事業として応募する 行政、市民団体とのネットワーク
- ・PRする
- ・国の補助金
- ・自分達の学習会
協働事業の勉強 アドバイザーグループからのコーディネート
若者を育てるアドバイスとコーディネート
- ・夢のある仕事をしていこうとしている
- ・出資すること(身銭を出す)で本気の努力を！

3. 協働推進会議の資金部会に望むこと

- ・助成金 出資
- ・一人前になりもらった融資が返せるようになるためには、とりあえず今は助成金申請

[発表]

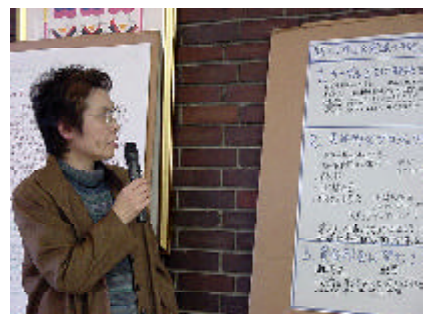
このグループでは「やまとの力社」をどうやって自立したプロジェクトにしていけるかをテーマに話し合いました。設立の基本理念をもう一度確認し、今持っているホームページ作成の力を高め、地域の若者のためにもかせげる場にしていきたい。「なんのためにやっているのか」をはっきりさせることが重要だということです。事業計画としては大和市と協働事業をしていきたいと思っています。大和市のホームページを作成する、あるいは市内の企業からホームページをつくる仕事を請け負うなどが希望です。

ブレードさんから研修を受けた知識をもっとスキルアップしていきたい。「やまとの力社」ならではの“売り”はどこか。魅力はどこにあるか。若者向け、高齢者向け、子ども向けなど市民の見やすいホームページづくりを目指したいと思います。

この組織が、若者が企業や社会に出ていく通過点であっても、会社としては“この指止まれ”方式で継続していくものにしていきたい。

具体的プロジェクトとしては、協働事業として応募し事業者とつながりをつくる、若者を育てる夢のある仕事を市民にもっとPRしていく、国の補助金を利用する、勉強会を開きお互い育ちあっていくなどが考えられます。自分たちで出資し本気の努力をしていかなければいけないというアドバイスも出ました。

資金部会に望むことは、始めは自分たちで出資し、助成を受けてスタートし、いずれは融資を受けて返せるような仕組みをつくっていけるようにしていきたいということです。



第2グループ「中央労働金庫 + NPO 法人ワーカーズコレクティブ 想」

1. 解決すべき課題の整理

- ・ 市民活動したい 資金を必要とする | CPB 返済できる 貸し出し
| 返済のめどが立たない | 補助金・協働事業 労金に依頼 返済 or 助成金
- ・ 寄付の文化がない日本 つくるべき 寄付金に対する税制の改善が必要
- ・ ろうきん NPO 事業サポートローンは使える (資源量に限界がある)
- ・ 寄付の受け皿を考える

2. 今後取り組みたい具体的なプロジェクトの提案

- ・ 市民ファンドをつくる
- ・ 強制的にファンドを集める (例: 資源回収の % をファンドへ)
- ・ 債券募集 出資金
- ・ 東京 CPB 方式の融資ファンドを大和につくる
- ・ 誰が中心になってどうやってつくる?
- ・ ろうきんが何かからめないか

3. 協働推進会議の資金部会に望むこと

- ・ 資金部会でバンクをつくれ

[発表]

このグループは「資金をどう調達するか」をテーマに話し合いました。先ほど設立当初の資金不足に苦労したというお話がありましたが、事業をやるには必ず資金がいる。その資金を借りた場合に返す当てがあるかどうか分かれ目になります。では、返せるめどはないがその事業が非常に社会的に有用性があるという場合はどうするか。東京 CPB 方式 (市民ファンド) のように出資金を募る、ろうきんのボランティア資金を利用する、寄付金を募るなどの方法が考えられますが、寄付の場合税制上の優遇措置が限られています。市民

ファンドの場合はどこが中心となるのかという問題がある。資金部会で行ったらおもしろいという案も出ました。債券をつけて資金を集めるという方法、または例えば現在自治体に還元されている有用ゴミの回収資金などをファンドに当てるなどという方法も考えられます。



活発な話し合い!

第3グループ「NPO法人コスファ COSFA+NPO法人ひよどり」

1. 解決すべき課題の整理

- ・大和市民活動センターの運営を担う協働の拠点運営委員会の委員として、当センターが今後他のボランティア組織・NPOとどのようにコーディネートしていくのか明確にしていきたい
- ・地域の中にある“自分の資源を地域で生かしたい”という意志ある人が見えてくる社会をどうやって創れるか
- ・中国在日女性たちが日本の地域活動に直接参加することによって、社会安定にも寄与したいです
- ・活動拠点をつくる(地域に元気を発信) [社会資源]
- ・地域で助けあいながら安心して働き、学び、老後をすごすための共有空間をつくる
- ・地域の特徴、ニーズを知る [社会資源の発見]
- ・コーディネートする(運営する) [社会資源をつなぐ]

2. 今後取り組みたい具体的なプロジェクトの提案

夢、資源、想いを結ぶアクションと仕組み

- ・市民活動と次世代を担うべき人的資源を結ぶ場が弱い
- ・地域通貨のグループをやっているいろいろな資源が集まるが、動きがつかれないでいる(広報の資金、時間、運営の仕方)
- ・自分たちの『夢』(実現したいこと)をわかりやすくはなしていく、みせていく [社会資源になる]
- ・人と人をつなぐ場。当事者グループの支援の場を協働でできないか(スタート支援)
- ・双子ちゃんの会、18組集まった。“思い”を伝えることから...

個々の資金、資源を私たちの事業が生かします

- ・素人とプロの間で悩む。NPO法人とは営利目的ではないというところがむずかしい
- ・現在介護保険の収入からの経営が大変きびしく、ボランティアさんの活用を受けたい。運営していくにあたりいろいろな方の講座を開いてもらいたい
- ・市民活動として法人を設立した。介護保険の事務所運営が主たる業務なので、想いと事業主という立場のギャップを感じている

3. 協働推進会議の資金部会に望むこと

- ・外国人(団体)にも融資は可能でしょうか?
- ・しっかり集めてください
- ・現存の新しい公共(NPO, etc)の問題点を整理し明確にする
- ・だれでも使える、申請できる助成
- ・広報 資源を必要としている人の情報、提供する人の情報のオープンな出会いの場
- ・いろいろな業種や組織の人が、1つのテーブルにのれる場をつくってほしい。
- ・市民事業を始める段階でもう少し援助があればいいのではないかと。もしくは低金利で貸し付けしてくれるのもいいのではないのでしょうか

[発表]

このグループは地域にある社会資源をどうつなげていかに話が集中しました。具体的なプロジェクトとしては、それぞれの思いを語ることで土地が見つかりCOS下北沢ができる、夢が実を結び南林間なんてんでデイサービスができるなど、夢見るだけでなくそれを人に伝えるという苦しい作業をしてこそ形となっていくことを実感しています。資金部会に望むことは、何か事業を立ち上げるときには額は少なくとも返さなくてもいいお金があるとありがたい、ということです。



第4グループ「そのほかの参加者」

1. 解決すべき課題の整理

- ・大和市の目玉がない。これぞ大和市だというAction
- ・市民活動団体の資金調達の方法
- ・お金を調達する人材をゲット(ネズミ講か)
- ・返すことを前提としてしっかりしたプランを立てて事業化イメージをつくる

2. 今後取り組みたい具体的なプロジェクトの提案

- ・子どもの未来プロジェクト(仮) 大和らしさ
- ・まず自然に触れる
- ・民間主導でやっていくにはパワーアップ
- ・森の資源を徹底利用(マツボックリ、ドングリ、クリスマスグッズ)
- ・お金を得る。かせぐこと
- ・経済のからくり、流れを学べる
- ・「環境」を意識する 京都議定書
- ・「世界市民」になっていくこと

3. 協働推進会議の資金部会に望むこと

- ・マッチングギフトの認知を広く知らせる
- ・寄付(融資)してくださった方に目に見える貢献したのだというものやコト。
- ・元金の保障(融資してくださった方に)

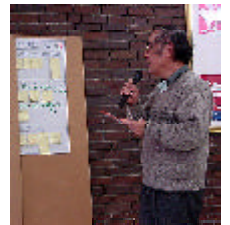
[発表]

このグループは「お金を得るとはどういうことか」を中心に話を進めました。市民活動ではともすれば苦手な面である「営業のセンス」が事業をやる上では必要になってきます。お金を調達するのが得意な人材をゲットするというのも大切です。

具体的なプロジェクトとしては、大和らしさを表現したい。それは「子どもと自然」を軸に据えたプロジェクトとしたい。例えば泉の森の生産物であるドングリやマツボックリを製品化して売り、子どもに経済のからくりを教え、環境を意識させる。それを各国に紹介し

地球市民としての自覚を芽生えさせるなど夢が広がります。

資金部会に望むこととしては、“マッチングギフト”という言葉をもっと具体的に分かるように広める、融資する人・受ける人のサンプルをつくるなどがあげられます。融資してくださった人が「役立つことに使ってもらえた」と目に見える利息があるといい、という意見も出ました。



本日のワークショップ参加者の感想

東京 CPB 坪井さん

今日は、皆さんが市民活動を通して大和市をよくしたいと考えている気迫が感じられました。私はグループ1に参加しましたが、「やまとの力社」のような若い方がこの場に参加していることがすばらしいと思います。貸金業として少しシビアなアドバイスになってしまいましたが、若い人一人ひとりが社会資源となって地域に根付くことを願っています。

コスファ COSFA 佐藤さん

COS 下北沢は単にラッキーな事例だったように受けとられがちですが、実現に至るまでには様々な問題をクリアしなければなりません。どこでも働きかけによって夢を実現できる「芽」を見つけることはできると思います。これからの活動のこともまたいつか社会資源としてお話ししたいと思います。

資金部会 宇津木委員

グループ発表の「資金部会に望むこと」という項目に少し他力本願のような不満を感じていたのですが、皆さんの発表を聞いて「その気になれば何かやれる」と力がわいてきました。具体的でなくても、同じ方向を向いてがんばっていると感ずることができました。来期ももし資金部会になりましたら、また2年がんばりたいと思います。

今日の感想 (感想カード)

- ・ 1. いろいろなNPOとの交流会を年に一度くらい開きましょう。
- ・ 2. 市民ファンド実現のために努力いたします。

・ グループ1に参加させていただきました。今まで自営業手伝いの主婦です。この年齢で何か自分にできることはないかと思っての参加でした。それと自分がこれからしたいことがあるので、その参考になる何かが見えるかもしれないと思って…。本当に1歩1歩踏み出した自分なので、こういう集まりもあるのだという事を感じ…力づよいものを頂きました。これからも何かできることをやりたいと思っています。大和市をよくしたいという想いが私にも伝わりよかったです。

・ 市民活動を始めに当たって大なり小なり資金が必要となる。これをどう調達するかが活動の分かれ目となる。市民主体のファンドの必要性を強く感じた。資金部会が中心になって、具体的に立ち上げる構想を考えても良いのではないか。

・ 今日はありがとうございました。改めて、日々の活動を大切にしていきたいと思っています。富山方式が私の夢ですが、小さい故に生き残りをかけて頑張りたいと思います。これからもよろしくお願ひします。

・ 非常に勉強になりました。イロイロとまだイメージが先行している段階なので、理屈がついてこないで大変勉強になりました。

・ 子供や高齢者といった一般的に弱者と呼ばれる方々を核にして、地域コミュニティ再生を図っていくための活動の重要性を再確認した。特に、第4グループのまとめで発表された、子供と自然をキーワードに環境保護の大切さや、木の実といった生産物を媒介に経済の仕組みを教えていくといった事に強い関心を持ちました。

・ 今日は初めてこのような会に参加して大和市以外の人達からの情報などを聞いてよかったですと思いました。

・ 活動資金について熱心に話し合いました。まだバラバラの思いや思いつきなどが始まっていますが、この始まりがあれば必ず実が結ぶと思います。ひとりひとりの熱意や情熱に感動しました。

・ 活動を行う上で必要不可欠である資金を、非営利の立場でどのように調達するか、本日多くの成功事例をうかがい大変有意義な時間を過ごすことができました。

・ 市民団体の方々の取り組みには感心させられることも多く、初めて参加させていただきましたが教えられることがたくさんありました。ワークショップはとても大切な意見をもらうことができ、これからの活動にむけて、考える材料になったと思います。ありがとうございました。

・ 真剣に市民活動に取り組んでいらっしゃるたくさんのグループにお会いできて大変うれしく思いました。COS 下北沢建設プロジェクトはラッキーなケースと思われがちですが(そういった側面もありますが)たくさんの方々のネットワークをつないで、実現にこぎつけています。「社会資源」のネットワーク、コーディネートだったかと思ひます。今後生まれる課題を新たな発見と受けとめ取り組みます。またお会いして何かを「社会資源」としてお話ししたいと思ひました。

・ 市民活動は「夢」を語ることは多いけれど、どうもそれを基本的に支え、継続していくときには「資金」が必要だということを2の次3の次にしてしまうところがあります。今日のWSでは、市民活動を運営、発展していくためにはお金が大事だということを改めて知らせてくれました。

・ 各テーブルごとの議論の内容は「社会資源」というものを深く考えさせてくれる興味深いものばかりでした。事例発表の内容もごく身近で、その気になれば自然にやれそうになる不思議な力を持っていました。元気をありがとうございました！

・「資金」というキーワードで実に多様な立場の方々、活動との出会いがあったことにあらためてお金の価値の大きさを実感しました。大和市の市民の皆さまの行政との協働、市民自身の力で地域をよくしたいという気迫が伝わる時間でした。こういう場所に「やまとの力社」という若者グループが登場するのが珍しく大変頼もしく思いました。この3時間を共有した彼ら、一言も発言しない人も多かったのですが「社会に参加したい」という思いがあるからこそ、と想像します。ぜひ今日のネットワークとアドバイスを生かして、質のいい、頼もしい社会資源として地域に根ざしていただきたいと思います。

・ 本日は勉強不足で見学程度で意見は言えませんが、ワークショップというものが理解できただけでも大きかったです。

・ 出資や寄付をするという行為に「投資している」という精神（気持ち）が加味されればいいと思いました。ひとつの活動に投資しているという気持ちがあればより強い思いで活動を見守ることができるのではないかと。また、株主でもあるように活動（事業）に賛同し参加しているという気持ち、あるいは株主の立場で厳しい目を持って事業（活動）を推進できるようになればお金の出しがいもあるのではないかと。

・ 市民活動センターの機能として社会資源の充実を図るとありますが、人・もの・かね・情報のデータベースの作成を考えていますが、助成金をゲットする戦略が大切だと痛感しました。

・ 本日は貴重なワークショップ会議に参加させていただき心から感謝申し上げます。市民活動、そして資源を大切に、地域社会に貢献する皆さんに本当に敬意を申し上げます。私達在国外人も地域で何ができるか、何をすればいいか考えさせられました。これからもよろしく願い申し上げます。

・ 新しい社会資源に基づいて活動している現在の公共町づくり組織（NPO等）が新規に発生したいろいろな課題を持っていることがわかった。これらの課題、特に金銭的問題を早期に解決させてあげる非営利組織（NPO、各種センター等）の解決のための相談能力向上が必要になっていると感じた。

・ みなさんのお話が心のはげみになりました。

・ 社会資源という言葉は市の広報で目にはしていたが、今日参加して資源という意味がはっきりと納得する事が出来ました。市民の方々に深く浸透していけたら素晴らしい大和市になるのではないだろうかと思いました。

・ いろいろなグループのお話が聞けてよかった。

・ 資金部会がやるべき方向、取組の方法が見えてくる、とても良いWSになりました。ありがとうございます。

・ 在日華人女性交流会の会員です。今日やはり勉強するために来ました。在日中国人としてできるだけ日本社会に貢献したいです。日本社会のことを理解しなければなりません。これから社会の一員として日本社会に力をだしたいです。

・ 市民事業を行う上で資金調達が一番悩ましいところです。市民主体の市民ファンドがあれば、顔が見える範囲でファンドの活用が可能になると思います。自らが出資又は寄付することでさらに事業体への責任と自覚が生まれると思います。「やまとの力社」の若者たちが事業に目覚め、ぜひ起業したことに「ほこり」を持ってほしいと願います。

・ 第一回目に比し、内容は現実的、多角的（実践へのアドバイス等）で格段に豊富だったと思います。資金調達の具体的なプログラムについて、参考になる情報が多かった。「やまとの力社」の存在に強く関心を持ちました。